

内閣府大臣政務官  
平 沼 正二郎 殿

自由民主党青年局

## 自民党青年局被災地訪問事業「TEAM-11」

### 宮城県多賀城高等学校災害科学科生徒からの提言に関する申入れ

自民党青年局では、東日本大震災発災以来、定期的に被災地を訪問する「TEAM-11」事業を実施し、復旧・復興状況の視察や被災経験者による当時の記憶、防災減災への取り組み状況などについて見聞を広めるとともに、防災を担う現役世代やこれからの被災地を担う若者世代との意見交換を行うなど、鎮魂の想いや教訓を継承するとともに、今なお残る課題に向き合ってきました。

本年7月に行った49回目の活動では、宮城県多賀城高等学校を訪問し、災害科学科の生徒約40名とのグループワークを行い、生徒から防災・災害対応に関する提言をいただきました。提言のどれもが経験や日頃の学びをもとにした学生らしい柔軟な内容でした。その中で、政府として対応すべき内容について以下、申入れをさせていただきますので、ご対応いただきたく、お願い申し上げます。

#### 記

- 予測可能な災害の場合（豪雨や河川氾濫など）、避難指示の文言をもっとわかりやすいものに変える。



一例として)

- ・ 現在の高齢者等避難では、該当者がわかりにくいため、避難所から遠い地域や高齢者が多い地域などを選定し、該当する地域用の避難指示項目を追加する。
- ・ 高齢者等のアイコンに妊産婦等のイラストを追加する。
- ・ ユニバーサルデザインを採用し、外国人にも一目でわかるようなイラストやインフォグラフィックを追加する。

- 避難所の設備や備品など防災に関する予算を確保し、地方自治体への支援を強化する。
- 理解しやすい防災事業の実施や防災教育のカリキュラムを取り入れる。
  - ・ 災害の伝承を広げるために、学校の修学旅行のカリキュラムを取り入れる。
  - ・ 垂直避難の重要性を学ぶために、通常の避難訓練に加え、全国で垂直避難訓練を実施する。
- 国で災害時のガイドラインを作成し、地方自治体が被災した時にすぐに行動できるようにする。

以上